

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成20年度 財務大臣賞 受賞	受賞者名
	新日本流通株式会社
	所在地
	兵庫県西宮市
	受賞テーマ
	1.8 リットルびん（一升びん）のリユース・リサイクルを担うプラスチック製コンテナのレンタル事業
1. 活動継続：あり	
・1.8 リットルびん用プラスチック製コンテナ（通称 P 箱）のレンタル事業を継続し、平成 29 年度で 45 年目を迎えた。平成 29 年 3 月現在、全国約 1,200 社のボトラー様にご採用頂いている。 ・昨今 1.8 リットルびん製品を段ボールで出荷される比率が高くなり、1.8 リットルびんの回収（リユース）が難しくなっている。使い切りの段ボールでは飲み終わった空びんの回収が難しくなり、回収段階でびんをカレット（破碎）処理される事が増加している。 これらワンウェイ化を阻止するべく、ボトラー様へ P 箱出荷での提案（レンタル）を継続している。	
2. 活動の広がり：あり	
＜他の組織との連携＞	
・平成 27 年 2 月～ 日本酒造組合中央会「1.8 リットルびん再使用率向上に関する委員会」に参画し、P 箱を用いた再使用率向上を図る取り組みをおこなっている。 ・ガラスびん 3R 促進協議会「1.8 リットルびん再利用事業者協議会」加盟の各ボトラー団体との協議やガラスびんリユース関係の各協議会に参画し、1.8 リットルびんを含めた各種ガラスびんリユース・リサイクルの向上を図る活動をおこなっている。	
3. 活動の進化：あり	
＜表彰・受賞履歴・外部認定取得＞	
<u>平成 28 年 1 月 環境省：「エコアクション 21 認証取得」</u>	
	

平成 26 年 2 月 公益財団法人日本環境協会主催：エコマークアワード 2013「銀賞」受賞



～歴史あるリユースの優等生 1.8L びんを支える「6 本プラ箱」と「エコマーク」～

平成 22 年 6 月 兵庫県主催：「兵庫県環境にやさしい事業者賞」受賞



平成 21 年 6 月 財団法人日本環境協会エコマーク事務局：「エコマーク認定取得」



～P 箱レンタル&リユースシステム～

4. 今後の計画

- ・上記活動を引き続きおこなっていく。
- ・「1.8リットルびん用P箱レンタル事業」を通じ、今後も環境にやさしいガラスびんリユースの向上を図っていきたいと考えている。

平成23年11月～ 中容量びん用12本入P箱を「福島県内流通用」としてレンタル開始。



名称：SC12本入P箱（900ミリリットル・720ミリリットルびん対応）

5. その他

＜教育活動の実施など＞

LEAF（特定非営利活動法人こども環境活動支援協会）主催の環境教育事業に参加

- ・兵庫県西宮市環境教育事業の一環として、LEAF加盟企業と共に出前授業をおこなっている。



兵庫県西宮市内小学校での出前授業（題目：びんとP箱のリユース）

平成22年～ 兵庫県主催：「ひょうごエコフェスティバル」に毎年出展

- ・1.8リットルびんとP箱のリユースについて、社員による説明をおこなっている。



P箱リユースシステムについての展示



紙芝居を使ってリユースをわかりやすく

P箱リサイクル (P箱 to P箱) の取り組み

- ・ 流通で破損・変形し使用不能となった P 箱は、再生原料（ペレット）化し、再度同じ P 箱として生まれ変わる。P 箱は単一素材である為、リサイクル工程を軽減化し省エネ化が可能となる。



破損した P 箱(写真は底部破損)



粉碎・再生原料(ペレット)化



再成型化

- ・ 今後は、他の同一素材品を活用した P 箱成型を行い、1.8 リットルびんのリユースと同様、循環型社会の構築に貢献したいと考えている。

(次頁に表彰概要を掲載)

【表彰概要】

同社は、1.8ℓびん用プラスチック製コンテナ（通称 P 箱）のレンタルを 1973 年に開始した。これは日本で初めてのリターナブル用プラスチック製コンテナのレンタル事業である。

P 箱の流通地域は事業開始時の近畿エリアから、現在は日本全国に拡大し、2007 年度のレンタル数は 14,667 千箱（1.8ℓびん 88,005 千本分）となっている。

●リユース

P 箱は全国 1,100 社余の酒類・飲料メーカーにレンタルされ、1.8ℓびん製品の出荷に使用される。また空になった 1.8ℓびんは P 箱に入れられ、同社が P 箱回収を委託している全国びん商連合会加盟業者の協力により集荷される。P 箱で回収された空びんは、選別・洗浄されて全国のメーカーでリユースされ、また、P 箱自体も同社の事業所や洗浄委託先で洗浄・検査されて、繰り返しレンタルされる。このように、P 箱のレンタル&リユースシステムは、1.8ℓびんのリユースを全国レベルで支えている。

●リデュース

全国のメーカーが P 箱を共通使用することで、メーカーが各個に自社箱を保有・使用することによるデメリット（回収コストや輸送エネルギーの無駄、ワンウェイ容器の大量使用・廃棄）が解消される。

●リサイクル

破損・変形などで使用不能となった P 箱は、再生原料（ペレット）化して P 箱の成型に利用される。P 箱は単一素材（高密度ポリエチレン）であるためリサイクル工程も軽減化・省エネ化できる。

P 箱のレンタル&リユースシステムは、その後に各業界で誕生するプラスチック製品循環型レンタルの先駆であり、各業界の 3R 推進にも寄与している。



1.8ℓびん用プラスチック製コンテナ（P箱）



自社事業所での回収P箱の洗浄